

I 第 31 事業年度 事業報告書

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

1. 事業概要

(1) 養豚情勢

ア. 農林水産省が 2 月に発表した畜産統計調査によると令和 6 年 2 月 1 日現在の全国の豚の飼養戸数は 3,130 戸（前年対比 92.9%、△240 戸）、飼養頭数は 8,798 千頭（同 98.2%）で減少が続いております。山形県においても、飼養戸数は 54 戸（同 81.8%）、飼養頭数は 159,900 頭（同 94.2%）で減少に歯止めがかからない状況です。

イ. 令和 6 年度の国内の豚熱（C S F）の発生は 7 件となり、報道によると 53 千頭余りが殺処分されました。令和 6 年度の県内の野生いのししの豚熱の陽性件数は、219 件となっています。また、隣国の韓国では 3 月に口蹄疫が発生し、アフリカ豚熱（A S F）も収束していません。より一層の警戒と防疫対策が求められています。

ウ. 豚枝肉相場は、豚熱やその他の疾病による出荷頭数の減少などにより、年間を通して高値で推移し、東京市場の上物年間平均単価は 666 円/kg（税込、前年対比 110%）で、前年に比べ約 60 円/kg 高い価格となりました。

エ. 今年度の配合飼料価格は、前年度末から 4,500 円の値下げとなりました（4～6 月期：前期比△4,600 円/ト、7～9 月期：同+2,200 円/ト、10～12 月期：△4,850 円/ト、1～3 月期：+2,750 円/ト）が、高騰前の令和 2 年度と比較し依然として約 1.4 倍の価格水準にあります。

オ. 配合飼料の安定基金補てん金は発動されませんでした。また、山形県の配合飼料価格高騰対策支援事業については令和 6 年度の上期分については実施済みで、下期分についても令和 7 年度に実施の見込みとなっています。

(2) 実施事業

こうした情勢のもと、「生産基盤・生産体制の充実強化」、「事業運営の健全化」、「防疫衛生・環境の保全強化」の 3 つの重点事項を柱に、以下の取り

組みを行いました。

ア. 開放育種型ランドレースを活用した「ガッサンエル」系統の維持増殖を行い、強健で発育性に富み、産子数の多いF1母豚の生産と供給につとめました。

イ. 老朽化による豚舎の雨漏りや破損した壁の補修など大規模な修繕を実施し、生産基盤・生産体制の充実・強化につとめました。

ウ. 10月より、生産コストの増嵩に対応するため種豚の販売単価を改定しました。

エ. CSFワクチンの適期接種の実践や、供給するF1母豚全頭でPRRS（豚繁殖・呼吸障害症候群）のPCR検査を実施しました。また、ワクチンプログラムに基づく防疫衛生対策の徹底・強化にあたりました。

オ. 臭気の発生防止と廃水処理施設からの排水の水質保持につとめるとともに、環境保全協議会を開催し、地元の自治会と意見交換を実施しました。また、センター環境保全協議会で締結した「公害防止協定」にもとづき臭気測定および水質検査を実施し、検査の都度「環境保全協議会」の構成員に結果を報告しました。

（3）火災の発生について

2月15日（土）午後1時50分頃に、種豚分娩哺育豚舎2号より出火し、種豚分娩哺育豚舎1棟が全焼し、飼養中の豚654頭を焼失する事故が発生しました。この火災事故によりセンター本体の生産能力は半減しました。

火災事故による損失額と保険金の受入額については次のとおりです。

ア. 種豚・子豚の焼失額： 15,584 千円

イ. 焼失豚の処分費用： 3,682 千円

ウ. 保険金の受入額： 17,765 千円

エ. 差し引き： △1,501 千円

この他に、分娩予定の母豚が焼死したことにより子豚の在庫頭数が減少したことなどにより3月末時点の棚卸資産への影響額は、およそ△6,000千円と試算しました。

上記のエと合わせて、3月末時点の火災事故による影響額は、およそ△7,500千円となりました。

火災事故の再発防止策として、洗浄機設置室の換気扇の稼働を目視で確認できるように稼働時に点灯するランプを設置し、天井への引火を防ぐために不燃材を張り付けることにしています。

(4) 事業概況

ア. 取扱頭数

(ア) 種豚販売は、養豚農家の減少等により、791 頭（計画比 95%・前年比 91%）となりました。

(イ) 肉豚販売は、夏場の猛暑による受胎率の低下と生産調整による産子数の減少により、9,247 頭（計画比 88%・前年比 89%）となりました。

(ウ) 子豚販売は、642 頭（計画比 107%・前年比 104%）となりました。

イ. 生産技術成績（繁殖・離乳成績）

(ア) センター本体

表 1 のとおり、交配及び正常産子数は、計画には届きませんでした
が前年実績を上回りました。分娩腹数や離乳頭数等についても前年実績を上回る水準で推移していましたが、2 月の火災により分娩予定の母豚や離乳前の子豚を焼失してしまったことから前年実績を下回りました。

(表 1)

項目	計画	実績	計画比		前年度 実績	前年度比	
			差	(%)		差	(%)
交配頭数	696	587	△ 109	84%	584	3	101%
分娩腹数	570	505	△ 65	89%	519	△ 14	97%
正常産子数	5,700	5,320	△ 380	93%	5,198	122	102%
正常産子数/腹	10.00	10.53	0.53	105%	10.02	0.51	105%
離乳腹数	570	520	△ 50	91%	533	△ 13	98%
離乳頭数	5,130	4,537	△ 593	88%	4,735	△ 198	96%
離乳頭数/腹	9.00	8.73	△ 0.27	97%	8.88	△ 0.15	98%
保育事故数※	570	629	59	110%	591	38	106%

※焼死した豚を除く

(イ) 平岡肥育農場

表2のとおり、導入頭数の減少に伴い出荷頭数は減少しましたが、事故頭数と事故率については359頭・4.97%となり、計画を達成しました。全農子豚生産農場における清掃方法の見直し等により導入する素畜の状態が改善したことと、平岡肥育農場におけるきめ細かな温度管理などが良い結果につながっているものと分析しています。

(表2)

項目	計画	実績	計画比		前年度 実績	前年度比	
			差	(%)		差	(%)
導入頭数	7,960	7,230	△ 730	91%	7,558	△ 328	96%
出荷頭数	7,470	6,601	△ 869	88%	7,412	△ 811	89%
事故頭数	398	359	△ 39	90%	545	△ 186	66%
事故率	5.00%	4.97%	△0.03%	99%	7.21%	△2.24%	69%

ウ. 収支状況

(ア) 事業収益：528,952 千円（計画比 92%、前年比 99%）

上記のとおり取扱数量の減によるものです。

(イ) 事業直接費：626,008 千円（計画比 99%、は前年比 111%）

この内、計画との乖離が大きい項目については、次のとおりです。

- ①材料費：豚舎の敷料に使用する粉碎もみ殻の購入量が、減少したことにより、計画比 39%となりました。
- ②販売費：取扱頭数の減少によると畜経費等の減少により計画比 92%となりました。
- ③保守修繕費：部材の調達や作業員の手配が間に合わなかったため翌年度への繰越や修繕箇所と修繕方法の見直しにより計画比 87%となりました。
- ④車両費：もみ殻運搬トラックを固定資産取得したため車検費用や修繕費等の減少により計画比 75%となりました。
- ⑤飼育豚評価益：火災で焼失した豚と分娩予定母豚の焼失による産子数の減少により計画比 23%となりました。

(ウ) 一般管理費

固定資産の増加に伴い固定資産税が増加し諸税負担金が増加したことや、小型車両系建設機械特別教育の受講費の増加などにより業務費が増加したことなどから 16,246 千円となり、計画比 105%となりました。

(エ) 事業外収益

特定求職者雇用開発助成金（900 千円）と山形県配合飼料価格高騰対策助成金（12,167 千円）、火災保険金（17,765 千円）等で合計 30,867 千円となりました。

エ. 当期利益

以上のことから当期利益は△86,226 千円（計画比△19,426 千円、前年比△59,796 千円）となりました。

以 上